

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

				No.	13-001		
PDCA	事務事業名	狂犬病予防事業	部課等名	市民経済部 環境課	担当 内線等	堤 332	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第3節 生活環境の向上					
		基本施策： 3. 環境衛生対策					
		単位施策： (2) 環境衛生の維持・予防					
		個別施策： ③狂犬病予防					
根拠法令等	狂犬病予防法						
対象・目的	狂犬病の発生を予防するため、半田市内で飼育されている全ての犬に対して狂犬病予防注射を実施させる。						
目的を達成するための手段・活動内容	市が直接行う集合注射及び愛知県獣医師会への委託により、狂犬病予防注射を実施する。 また、畜犬台帳の適正化を図ることにより、市内で飼育されている犬の頭数と狂犬病予防注射の接種状況を正しく把握する。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		集合注射の延べ開催回数	24	24	0	回	
		新規登録の受付件数（無償交付等を除く）	477	403	495	件	
		高齢犬等の調査件数	86	87	178	件	
		事業費	1,907	1,865	2,158	千円	
		人件費	3,968	3,614	3,086	千円	
		総事業費	5,875	5,479	5,244	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		登録犬1頭あたりコスト	809	763	765	円/頭	
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		狂犬病予防注射接種率	実績値	85.4	85.7	86.7	%
		目標値	90.0	90.0	90.0		
			実績値				
			目標値				
			実績値				
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 法定事務	④上位施策への貢献	—	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	—	⑤成果向上の余地	ある		
	事業の評価・課題	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
		C					
		新型コロナウイルス感染症拡大防止により集合注射が中止となったため、公用車やHPなどでの広報で開業医でも接種できるPRを行い、接種頭数の維持に努めた。また、例年実施している海外転出者における、飼い主変更手続き勸奨事務のほかに、市外転出者や高齢で直近の注射履歴がない犬の所有者に対する生存確認を行い、確認がとれなかった犬の登録を削除し、畜犬台帳の適正化を図った。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		令和2年度末現在、畜犬台帳に登録している犬の頭数は6,857頭であり、令和2年度に注射を接種した犬は5,948頭だった。畜犬台帳上では、高齢、病気等の理由で注射を猶予された犬121頭の登録があった。このことから、実質、注射を接種しなければならない犬は6,736頭であり、目標値に近い約88%の犬が予防注射を接種したことになる。しかし、約12%の犬が注射を接種しておらず、また、国内で狂犬病の発症者が確認されたこともあり、引き続き犬の飼い主に対して予防注射実施の必要性を広報、周知していく。					
	令和3年度の目標	成果指標	目標値			単位	
		狂犬病予防注射接種率	90.0			%	